

一誌一句(受贈誌3・4月号他より)

米田透抄出

うるはしくのどふくらませ蛙鳴く

(雅楽谷)

中田 水光

ミサイルは宙に新酒は盃に

(犀)

桑原 三郎

先の世に分け入る心地初山河

(壺)

高橋 千草

牡蠣殻に包丁差し込む鬼となり

(信濃俳句通信)

佐藤 文子

流砂的な、あまりに流砂的な僕の右手

(形象)

高岡 修

青竹の節目正しく年迎ふ

(風港)

中川 雅雪

戒名は呆け俳人か凡夫人

(詩あきんど)

二上 貴夫

これからも願ふ前進牡丹の芽

(天塚)

宮谷 昌代

魚は氷に上り両界曼荼羅図

(鴻)

増成 栗人

亡き人もひとつ歳取る弥生かな

(香雨)

片山由美子